

なみ

1 月号
vol. 107



巻頭特集

にしなりの小遺産

こいさん

「2016年もよろしくお願ひします。」
鶴見橋商店街にて撮影

にしなりの小遺産 こいさん

にしなりのまちの遺産を発掘していきます。
歴史や地域が育てたのは建築物や遺跡などだけではありません。人も大切な遺産なのです。わたしたちはそれを小遺産（こいさん）と呼び、まちの小遺産を発掘しつづけます。

こいさんプロジェクト・若松司／西田吉志／佐々木敏明



こいさん⑥ 川辺康子さん

川辺さんの名前は、西成区北西部の小中学校の児童生徒らにはよく知られている。学校や家庭を中心に、常に人との関係をつくってきた。地域の子どもたちや、その親たちの難儀にかかわり、よりよい暮らしの原動力を見つげるための生活応援をする。今その場で困難をかかえた子どもや親たちが、一呼吸して回復していくお手伝いをするのが、川辺さんの仕事なのだ。



川辺さんの お仕事を聞く

川辺さんは西成区の松通り付近の橋小学校区内で誕生した。現在、NPO法人ヒューマン地域振興協会の職員だが、その拠点施設である市民交流センターはこの3月で閉館することが決まっている（「なび」105号参照）。

地域コミュニティー活動の一環として、2年前に地域の子どもたちが学べる「こども楽塾」を主宰し、昨年度には「こども食堂」を立ち上げた。これらの事業は交流センター内で定期的に開かれていたが、3月の廃館後もいかに継続していくのかが、川辺さんの目下の課題となっている。川辺さんの子ども支援活動は、12年前にさかのぼる。西成児童館（現在廃館）でボランティア活動をしたことが契機となっているようだ。緊急雇用創出事業で

「わが町にしなり子育てネット」の事務局に子育て支援員として入り、10代の親たちを支援する冊子づくり、統計作業、居場所づくりの企画などの仕事をしてきたという。子育てネットの子育て支援員は2年間の事業で、終了後は1年間ほど無給でボランティアを続けていたらしい。

9年ほど前、青少年会館（現市民交流センター）で「識字よみかき教室」のコーディネーターとして運営を引受けることになった。しかしこの事業をコーディネートする自分と、地元の会館側との思惑が一致せず、「なんでここに（地元外の）君がいるのか」といわれたことが忘れられない。話があったから引受けただけなのに、受け入れてもらえない悔しさがあった。そんな中でも少数の協力者、地域の教職員の方と共にコーディネーターとして引受けることになったという。こうして川辺さんは人権文化センター（市民交流センターの前身）

に所属することになっていく（このあたりの施設の移り変わりは「なび」106号をご参照ください）。

「とくに識字よみかき教室は、今まで取り組んだことのない問題だったので自分としては右も左もわからない状態だった。まずは地元の人に仕事を依頼するべきだったのかもしれない。わたしが担当しても事業への資金援助などの協力が無く、大きな問題への理屈と行動が一致して





いない組織に不信感を持ったこともあった。しかし今では識字よみかき教室は、自分にとって大切な事業だ。それも家族や周囲の協力のおかげ。恵まれた環境のおかげで好きなことが出来ると思う」と川辺さん。

川辺さんがやっている、公私の区別がむずかしい仕事は、環境がすごく大切なファクターだと思う。仕事に理解なく、協力が少ないところで仕事をするのは困難なことだ。川辺さんは、「家庭面でのフォローが一番大きかったのでやり続けられた」と実感している。

仕事を続ける決意をしたのはいつ？

「その決意は今も無い。『自分ここに居るべき存在ではないのでは?』と思っているから。けど、ことにも関することはやり続けたい。里親になったり、グループホームをしたり、自分

の目の前のこともが安心して笑えるような環境をつくりたい」と言い、その一方で「自分にはどこかで不安があり、問題がしっかりと(客観的に)見えているのか、自己満足に陥っていないかなどと考えてしまう」と内省もする。

早朝に弁当を作って子どもらの家に届け、学校に行って読み聞かせ活動をしてから本業に就き、夕刻からはまた戸別訪問を続ける。川辺さんはこれを一人でやっている。今はいいけれど、いつまでスーパーウーマンを続けるのか心配に思うことがインタビューである私にはある。

「今のところに動いているから出てくる。けっこう自分にきびしくしているから同じ立場の人たちにきびしくなることもしばしばで、支援者や作業協力者などと軋轢を生じてしまうこともある」「今やらなければならぬことを、知つていながらやらない人は不思議で仕方がない。

他方、自分と同じような行動をする人ばかりでもないということもわかつている。川辺さんは、理解されないことには慣れてはいるが、おそらく、いらだちも同居しているのだろうか。

こどもたちとの関係を築くために

「小学生の頃、姉弟と長橋の青少年プールを利用してきた。そこで『何しにきた、ここは俺たちのもんやから、よそもんは帰れ』と門前払いされた記憶がある。あの人たちは今どこに居るのか、排除を拒否する運動をしている人たちが、いとも簡単に排除することの矛盾をずっと感じてくる」。川辺さんは、個人の正義と組織のそれが一致しないばかりか、ときに矛盾することを今も問いつづけている。「人権文化センターの本質はわからない」という川辺さんだが、肌で感じる違和感を持っているのだろうか。



しかし「学校現場でこどもに関わる元鶴見橋中学校の西川先生や、今は亡きわかかくさ保育園園長の小掠さん、元西成児童館館長の出水さんらには、言葉より行動を通してこどもとの接し方を教えてもらった。自分もこんな伝え方をしていきたいと思う。地域が大切だと思つてくれるこどもたちが出てくれればいいと思つている」と話す。

6年ほど前に「こどもの居場所づくりをした時に声をかけ集まってきた、しんどい思いを抱えたこどもたち。その居場所は開催するたびにたいへん大騒ぎになった。その騒ぎはこどもたちの悲鳴に聞こえ、胸をしめつけられる思いをした。その中には食事をしていないこどももいると想像できた。

なかなか関係性を持ってない時期が続き、それならばと学校に行き、本の読み聞かせをしたり『こども楽塾』『こども太鼓教室』『こども食堂』などの事業を始め

た。すると、関わりづらいこどもたちが、徐々に参加するようになってきた。母子家庭のお母さんや薬物依存の青年などにも声をかけて、さまざまな相談や付き合いをする中で、関係づくりの大切さを味わうことが出来てきている。行政や教育機関の杓子定規なやり方では、本来の関係性を築くことは出来ない。人と人のそれぞれの関係を原点にしていくことが自分のやり方だ、と今は思う」。

インタビュアのあと、語らずに終わったかもしれない言葉を聞かせてくれた。「自分の幼少期に、助けてもらえなかったこと、聴いてもらえなかったことがあって、現在の仕事をする上で、大きな動機づけになっているのではないかなと思う」。

それは現在、川辺さんのもとに集まる、青少年少女たちの存在に自分を重ねながら、伝えたかったことだろうか。

文責：佐々木

■ 1年生の時間割のイメージ

	月	火	水	木	金	
0	10分	ウェイクアップタイム				
1・2	30分	(学) 国語基礎				
	30分	(学) 数学基礎				
	30分	コミュニケーション英語Ⅰ				
3	50分	保険	体育	(学)社会入門	家庭基礎	(学)理科入門
4	50分	(学)社会入門	(学)理科入門	社会と情報	家庭基礎	(学)社会入門
屋休み						
5	50分	社会と情報	芸術Ⅰ	エンパワメントタイム	体育	エンパワメントタイム
6	50分	体育	芸術Ⅰ	エンパワメントタイム	LHR	エンパワメントタイム
SHR (終礼)						

1年生の国数英は、毎日30分の授業を、少人数・習熟度別で行います。

色々な「正解が一つでない問題」に取り組むことで、考える力やコミュニケーション力が身に付きます！

業」を行う新しいタイプの学校で、生徒の持っている力を最大限に引き出し、社会で活躍するための力をつけるための仕掛けがたくさん

毎日が充実すると、自分のまわりにも関心が湧く
また近年、近隣施設との交流も進んできています。たとえば生徒会やサッカー部が北津守小学校の正門で朝のあいさつ活動をしています。こうした活動が学校と地域の連携を深めていきます。その他にも、10月31日に市民

んあります。具体的には、これまでの40人から30、35人へと1クラスの人数を減らして、より丁寧に一人ひとりとかかわること。また、1年生の時間割には30分授業のモジュール(上図参照)を導入し、ウェイクアップタイムで集中力を上げたうえで、習熟度別に3クラスに分けて授業を行います。

おかげで授業の理解度も深まり、学力も上がっているようで、その結果、遅刻の数が減るばかりでなく、引きこもりがちの生徒も学校に顔を出すようになり、今年度は教室に入れない生徒はほとんどいないとのことでした。



北津守小学校での朝のあいさつ活動の様子



写真上：子ども秋まつりの準備中
写真下：毎朝、生徒が行き来する校舎

交流センターにしたりで行われた「子ども秋まつり」の運営に関わり、チケットづくり、会場設営、ビンゴ大会の司会、出店の手伝いなどに積極的に参加したそうです。生徒会副会長は「次回のまつりはぜひ西成高校でやりたい」と語ってくれました。

レポート…寺嶋公典



【寺嶋公典】正月の箱根駅伝は数々のドラマが繰り広げられます。抜きつ抜かれの展開も好きですが、途中リタイヤは心が痛みます。「ゆ〜とあい」は1月9日から、走り出します。

子どもたちを育むには、学校と家庭に加え地域の役割がとても大切です。ただ、学校がどんなことをしているのかわっている人は案外少ないのでは？ということで、これから学校の様々な出来事や取り組みをお知らせしていきます！

7時間目：西成高校

きんこんがこん



鶴見橋中学校の生徒と、子ども秋まつりの準備中

生徒を支える創意工夫の学校運営を実践

西成区北西部の教育現場・出来事にスポットライトを当てるこのコーナー、7回目は西成高校です。西成高校は1974年4月に開校、2001年に知的障害のある生徒の高等学校受け入れに係る調査研究指定校に指定、2003年には普通科総合選択制に改編、2006年には知的障害生徒自立支援コースを設置、そして今年度にはエンパワメントスクールに位置づけられました。様々な課題を抱えた生徒を数多くかつ幅広く受け入れ続けている一方で、中退が頻出する時期もありました。しかし、現在は時代のニーズに応えるべく、創意工夫の学校運営が行われています。

一人ひとりと向き合うことで、生徒は成長する

そういった中、今年度から開始したエンパワメントスクールの取り組みが大きな成果を上げています。「わかる授業」「おもしろい授業」「意見を出し合う授業」ほんものに触れる授

エンパワで生徒の力を引き出すで！ 西成高校

ナイスな仲間たち

「ナビ」をつくる(株)ナイスは、地域での取り組みも、社会に向けた取り組みもいろいろ。多様につながる実践を紹介していきます。

VOL.22 スターブレインズ大阪校



神戸校・大阪校のスタッフと末次氏(右端)

2016年3月パークコート3階に「小さな国際人を育てる」スターブレインズ・インターナショナルスクール大阪校がオープンします。7年前にオープンした神戸校では外国人講師のもと、楽しみながら英語を学ぶ子どもたちの笑顔がみちあふれています。本号では、初々しいナイスな仲間『スターブレインズ大阪校』のマネージャー、末次氏に登場いただきました。

スターブレインズとは？

神戸三宮でスターブレインズを開校して7年がたちます。これまでに100人以上の生徒が巣立ちました。スクールを開いた当初は、「国際化の急速な進展や先進国ワーストの英語力の日本で育つ子どもたち。仕事と育児の板挟みで悩む親のみなさんに少しでも

役立ちたい。」という思いでした。子どもたちの六感(見る、聞く、嗅ぐ、味わう、触れる、行動する)を大切にしながら、本格的な英語を楽しく身につけられ、長時間お預かりできる2歳〜5歳までの就学前児童を対象としたスクールがスターブレインズです。



神戸校の授業風景

西成でのチャレンジ

3月からは念願の2校目がパークコートでスタートします。施設は新築かつ大阪最大規模で申し分ありません。充実したハードに恥じないように、神戸校で培ったノウハウやソフトが大阪西成にもしっかりと根付くように運営していきます。そして、大阪校では新たに2つのチャレンジを考えています。

1つ目は『福祉とのコラボレーション』です。神戸校では育ちがゆっくりな生徒や障がいを持つ生徒もいます。そのなかで「英語」の上達を目指すばかりでなく、子どもたちの可能性を拓くコミュニケーションツールとして「英語」の可能性を実感しました。西成には20年近くの『福祉でまちづくり』の実践があります。この地で福祉とスクールの持つノウハウの連携にチャレンジし、英語を活用した障がい児支援

や居場所の提供につなげていきます。

2つ目は『共生社会づくりへの貢献』です。西成には大阪西成沖繩県人会や在日本大韓国民団西成支部など、地方出身者や外国人の方を多く受け入れてきた多文化・多民族共生の歴史があります。同じパークコート1・2階のスマイルゆ〜とあいや学校などと連携しながら、外国人講師の派遣や地域イベントへの参加などを通じ、地域と異文化交流の機会を提供し、共生社会づくりに貢献していきます。

とは言いながらも、3月のスタートにむけ、やるべきことは盛りだくさんです。まずは一歩ずつ足場を固めながら、地域の一員として認められ、2つのチャレンジを進めていきますので、応援をよろしく願っています。なお、スクール見学や体験会も随時受け付けています。興味をお持ちの方がありましたら、ぜひ一度ご連絡ください。(文責：末次咲子)

スターブレインズ大阪校 (担当：末次) <http://www.starbrains.net>

住所：〒557-0024 大阪市西成区出城
2-5-10 パークコート3階

電話：06-6568-3819
メール：oskinfo@starbrains.net



【谷口円】2016年は個人的な作品制作(写真)をがんばりたいなあと考えています。イコール、写真フィルムの値段高騰で制作代がかさむので、仕事もがんばらなければ…!とっています。



【岡田秀朋】吉野は桜と金峯山寺だけじゃない。先日、冬の吉野を満喫してきました。古い料亭をリノベしたゲストハウス三奇楼、墓にことごとこだわる中井春風堂、人口2500人余りの村のシェアオフィスOfficeCamp。おすすめです。



【沖田一志】引越しが続きます。ここからあっちへ。空いたところに、次はあそこから…まるでパスルのように。年が明けても次々と続きます。ボクの職場も近々に移転する予定です。



【飯島照喜】「にしなり隣保館 スマイルゆ〜とあい」が1月にオープン。地域の人達に「愛される隣保館」としての事業展開が一層重要になると改めて実感しています。



今月の花：シクラメン

花言葉「遠慮」「気後れ」「内気」

この花は、冬の鉢植えの代表格ですが、日本では「死」「苦」の語呂合わせから、病院へのお見舞いには縁起が悪いとされています。



あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願ひします。先月ささいなことから、言い合いになった浅やんがもう花屋に来なくなりました。毎朝、コーヒーを飲んで、博打の話をして帰る人でした。前にも半年くらい来ない日があったけど、又来るんかな～行くとこあるんかな～ (なんばひとみ)

hidarimaki

新年明けましておめでとございます。と言いつつ、師走の喧騒のなか、いつわりのご挨拶で締めくくってしまいました。また2016年にお会いしましょう。

偽造
杭データをクレーターと読み秋果てぬ
風景1
パン食う少女冷えた眼差し無頼となる

熱狂再襲来
紅葉が常緑樹追う選挙戦
風景2
着たきりが男の日印冬雀

い湯かげん

効率化と福祉は両立できるかという「橋下難問」

12月初旬、都島区の大阪市総合医療センターへの抗議行動でニュースに映ったものだから、幾人から「TVで見た、元氣そうやん」との連絡をもらった。

事の起りはこうだ。この病院の玄関清掃等では、エル・チャレンジの支援を経た7人の知的障害者が働いている。この病院が「大阪市立」から「独立地方行政法人(大阪市民医療機構)」に経営移行(一種の民営化)して、病院機構は委託清掃の入札をこれまでの「総合評価入札」から「一般競争入札」に変更した。これだと障害者が解雇されてしまうと察知したエル・チャレンジが抗議に出向いた。TV放送社はこれを取り上げ

橋下市長の記者レクで質問したが、市長は「とんでもない、総合評価入札に戻させる」と瞬時に対応したから、「橋下vs官僚機構」と見てちよつとしたニュースになった。

慌てた病院機構は、「障害者雇用は守る。総合評価では委託事業者の法定雇用率に換算され、病院の雇用率未達成は解決されないから直雇用するつもりだった」と火消に走った。しかし、病院機構は「別の事務棟での直雇用する」と口を滑らせて、エル・チャレンジの怒りを買ひ、ようやく「雇用も職場も守る」と約束した。退任まで秒読みの橋下市長が、既に公募されている入札をやり直させ

られるかと注目されたが、その後の記者会見で、「やり直しには時間がないから、今回は障害者の雇用と職場を守るとの病院を信じるが、次回は総合評価入札に戻すべき」と述べて幕を閉じた。橋下さんの最後の「トップの判断」を見たが、ボクは、いつもながら「敵ながらあつぱれ」と拍手した。総合評価入札を土俵際で守れて、障害者の雇用と職場の両方も何とか守れた。

この問題の根本に立ち入ってみる。病院機構は高いハードルの効率化を市長に迫られた結果、中小企業の受注と雇用創出に道を拓く設備と清掃の分離発注方式をやめ、総合メンテナンス(一括)発注方式に変えたが、効率化のあまり障害者雇用を忘れた。「雇用率達成のため」は、まったくの後出しジャンケン。

橋下さんが「効率化と福祉の二兎を追え」と言い残して任期を終えたのは象徴的だった。ボクはこれを「橋下難問」と命名して、「解いてみよう!エル・チャレンジ」



『新年初の事件』

台所から
香ばしい匂いがやってくる。
その匂いにつられて、
鼻がピクピク動き出す。

ピースの育ての母の赤井まゆみです。ピースがお喋りしたい事や思っている事を、これからもたくさん感じ取って、みなさんにお伝えしたいと思っています。



私は、
すぐに気を取り直しイザ逮捕!
って思った瞬間、そのお餅は
お母さんの胃袋に逃げこんだ。
私は、
逮捕できなかったこと、
私の胃袋に届かなかった悔しさを、
味わってしまったワンワン!!

赤井まゆみ

と呟いた。総合メンテナンス発注に「設備と清掃のJV(共同企業体)」で応札等の「応用総合評価」を描けるか。はたまた、法定雇用率換算基準そのものが産業動態と乖離しているから、総合評価入札のような政策的契約の場合、受注企業の雇用率を発注企業にもおすそ分けする「連結換算」に法改正できないのか等々知恵が必要だが、解いてみよう。

師走とともに橋下市長は去ったが、「反橋下」の人たちはこの「橋下難問」を解いてくれるだろうか。橋下さんは難問を取り上げはしたが、解いてはいないのだ。ここから始まるということに早く気づかないといけない。



㈱ナイス代表取締役
富田一幸

人間のしあわせ、福祉のあり方、そして新しい社会の結びつきを求めて、これからも「いい湯かげん」のテーマ探しに出かけます。



[安田拓也] 去年はこれに出てくだけで全然協力ができませんでしたが今年こそは!何卒宜しくお願いします。

[若松司] 新年が明けましたね。ある書によると、「申」は草木が伸び切り果実が成熟して堅くなっていく状態を表すそうです。数年後の成熟に向けた布石になる今年になりますように。

みんながイキイキ活動をしています

「スマイル ゆ〜とあいのサークル活動」

スマイル ゆ〜とあいでは、「居場所事業」のひとつとして様々なサークル活動が行われています。興味のある方、ちょっと覗いてみたい方、お気軽に「スマイル ゆ〜とあい」へ立ち寄ってみてください。



◆卓球サークル

日時：12月21日(月)より
毎週月・水・金
午前10時～午後4時
場所：スタジオ6・7



◆社交ダンスサークル

日時：12月22日(火)より
毎週火曜日
午後1時～午後4時
場所：スタジオ6・7



◆リラクソヨガ

日時：1月15日(金)より
毎月第2・4金曜日
午前11時～正午
場所：スタジオ1



◆カラオケサークル

日時：1月5日(火)より
毎週火・水・木
午前10時～午後4時
場所：音楽スタジオ

その他にもいろんなサークル活動をご用意しています。
ぜひお問い合わせください。



【お問い合わせ先】

にしなり隣保館 スマイル ゆ〜とあい
<http://www.s-you-i.jp>

所在地：〒557-0024
大阪市西成区出城2丁目5番9号
パークコート1F・2F

TEL：06-6561-8801 FAX：06-6562-1158

休館日：年末年始(12月29日～1月3日)のみ

開館時間：午前9時30分～午後9時30分

アクセス：JR大阪環状線今宮駅から徒歩10分

地下鉄四ツ橋線花園町駅から徒歩15分

喫茶なびは
午前7時30分
から
午後4時
までオープン

あとがき

新年が明けました。同時に「にしなり隣保館 スマイル ゆ〜とあい」もオープンしました。今年1年、スマイル ゆ〜とあいではどんな出来事や出会いがあるのか今から楽しみです。

そして「なび」につきましては皆様方にききつづきご愛読いただけるよう編集部一同、今後も精いっぱい努めてまいりますので、今年も1年よろしくお祈りします。

(西田)

なび1月号(vol.107)

発行日：2016年1月1日(創刊日：2007年1月1日)

発行：株式会社ナイス

発行人：代表取締役 富田一幸

印刷：有限会社前山企広

住所：大阪市西成区長橋3-6-33 電話：06-6563-1156

E-mail：info@nice.ne.jp

url：<http://www.nice.ne.jp/>

編集長：寺嶋公典

編集：飯島照喜、沖田一志、佐々木敏明、田岡秀朋、西田吉志、

安田拓也、若松司(あいうえお順)

イラスト：hidarimaki デザイン：谷口円